

旧社会資本総合整備計画（都市公園等統合補助事業） 事後評価シート

計画の名称	都市公園等統合補助事業		
計画の期間	平成20年度～平成24年度（5年間）	交付対象	刈谷市
計画の目標			

- ・岩ヶ池公園は平成16年度の伊勢湾岸自動車道刈谷パーキングエリア供用開始にあわせて、第一期整備区域を開園し、平成20年4月に第二期整備区域の主要な部分を開園した。その後第二期整備区域の未開園部分、続いて拡張部分と第三期以降の整備区域について、用地買収を行い順次施設整備を行う。
- ・刈谷市総合運動公園の北側の用地を取得し駐車場を整備する。
- ・開設後20年以上経過した都市公園を対象として、今後進展する公園施設の老朽化に対して効果的な維持管理や改修計画を策定し、改善・更新費用の標準化を図る観点から公園施設の状況を把握・整理し、適切な施設点検・維持管理方針の検討を行い、公園施設の安全・安心な利用に資する。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・一人当たり緑地環境整備面積（都市全域）は、現状の8.5㎡/人を維持する。
- ・一人当たり緑地環境整備面積（DID区域）は、現状の7.3㎡/人を維持する。
- ・歩いていける身近な緑のネットワーク率は、現状の48.5%を維持する。

定量的指標の定義及び算定式

	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H20年度当初)	中間目標値 未設定	最終目標値 (H24年度末)							
① 一人当たり緑地環境整備面積（都市全域）	8.5㎡/人		8.5㎡/人							
② 一人当たり緑地環境整備面積（DID区域）	7.3㎡/人		7.3㎡/人							
③ 歩いていける身近な緑のネットワーク率	48.5%		48.5%							
全体事業費	合計 (A+B+C)	892百万円	A	892百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価（中間評価 フォロアアップ報告）の実施体制	事後評価 事業終了後
市内部で検証し、学識経験者に意見を求め評価を実施した。	公表の方法 刈谷市ホームページにより公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H20	H21	H22	H23	H24		
A-1	公園	一般	刈谷市	直接	刈谷市	都市公園事業（岩ヶ池公園）	用地買収（2.2ha） かきつばた園等（3.0ha） 駐車場等（0.8ha）	刈谷市						725	計画
														0	実績
A-2	公園	一般	刈谷市	直接	刈谷市	都市公園事業（刈谷市総合運動公園）	駐車場等整備（1.0ha）	刈谷市						154	計画
														0	実績
A-3	公園	一般	刈谷市	直接	刈谷市	公園施設長寿命化計画（刈谷市）	長寿命化計画等の策定	刈谷市						13	計画
														12	実績
											計画合計	892			
											実績合計	12			

B 関連社会資本整備事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考				
									H24	H25	H26	H27	H28						
計画合計																			
実績合計																			
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考		
C 効果促進事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考				
									H24	H25	H26	H27	H28						
計画合計																			
実績合計																			
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考		

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

・社会情勢の変化により交付対象事業となっている大型の都市公園事業は実施されなかったが、長寿命化計画を策定したことにより、計画的に公園施設の長寿命化を図っていくことで、公園施設の安全・安心な利用が可能となった。

II 定量的指標の達成状況

指標①（一人当たり緑地環境整備面積（都市全域））	最終目標値	8.5㎡/人	目標値と実績値に差が出た要因	・整備予定であった公園が計画終了時点までに開設されていないこと及び、対象区域の人口が当初の予測人口よりも増加したため、人口当たり公園面積は低下した。	
	最終実績値	8.5㎡/人			
	指標②（一人当たり緑地環境整備面積（DID区域））	最終目標値	7.3㎡/人		目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値	7.1㎡/人		
	指標③（歩いていける身近な緑のネットワーク率）	最終目標値	48.5%		目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値	48.5%		
	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因		
	最終実績値				

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
(必要に応じて記述)

・現在、単年度で施設の更新を行っているが、本市の公園は昭和40年代から50年代に多くが整備されており、今後、同時期に多くの施設の老朽化が進み対応が難しくなることが予想される。こうした中で今回、長寿命化計画を策定したことにより、老朽の実態と予算状況を勘案し、計画期間を10年間として、予算の平準化を図りながら計画的に公園施設の長寿命化を図っていくことで、公園施設の安全・安心な利用が可能となった。

3. 特記事項（今後の方針等）

・第7次総合計画で目標としている「市街地に緑の多いまち」を実現していくには、本計画で実施できなかった大型の事業など、量、質ともに必要性の高い事業に取組むとともに、刈谷市緑の基本計画において「緑の拠点」や「歴史保全エリア」となっている公園等の整備を行っていく必要がある。

・公園利用者の持続的な安全確保を図るためには、定期的に健全度判定を行い、施設ごとに補修及び更新する方針を記載した公園施設長寿命化計画を活用し、計画的に老朽化した公園施設や安全基準を満たさない遊戯施設等の改善等を進め、公園施設にかかるコストの低減、平準化を図っていく必要がある。